

第 241 回 一橋大学の上田貞次郎像、磯野長蔵像、兼松房治郎像、及び矢野二郎像

筆者：林 久治（記載：2023 年 6 月 27 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。[227 回の記事/f](#) では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。[228 回の記事/f](#) では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。[229 回の記事/f](#) では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。[230 回の記事/f](#) では、大阪市中央区の林市蔵像の探索記を記載した。

私は 6 月 24 日に、三鷹市の杏林大学医学部付属総合病院の松田進勇像と国立市の一橋大学の銅像を探索し、その探索記を[前回の記事/f](#) に記載した。実は、私は [87 回の記事/f](#) で、本学構内の矢野二郎像、村瀬春雄像、佐野善作像、及び堀光亀像を紹介した。しかし、当時の私は日本の銅像探偵団に加入したばかりで、これらの像の制作者を調査していなかった。その後、私は何度か一橋大学に足を運んでみたが、武漢肺炎のため部外者は入構禁止になっていた。「最近の入構可能になっているかもしれない」と思い、今回行って見た次第である。

私が何度も一橋大学に足を運んだ理由は、上記 4 像の制作者を調査する以外に、もっと大きな理由があった。それは、本学には上記 4 像以外に、[1\) のサイト/](#) に収録されていない銅像が未だ残っているとの記事 ([3\) のサイト/1](#) と [4\) のサイト/1](#)) を発見していたからである。本稿はこれら未収録の銅像の探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）一橋大学の銅像

次ページの図 1 は、一橋大学構内の銅像分布地図である。



図1. 一橋大学構内の銅像分布地図、本図は、[3\) のサイト/1](#)より借用。

図1は、一橋大学構内にある銅像とレリーフの分布地図である（AからIまで）。それらのリストを以下に示す。

A: 上田貞次郎（胸像）、B: 磯野長蔵（胸像）、C: 福田徳三（レリーフ）、D: 佐野善作（立像）、E: 村瀬春雄（胸像）、F: 矢野二郎（立像）、G: 堀光亀（胸像）、H: 兼松房治郎（胸像）、I: 富田鉄之助（レリーフ）、森有礼（レリーフ）。

レリーフは[1\) のサイト/](#)の対象外なので、レリーフ（CとI）は探索しなかった。村瀬春雄像（E）、佐野善作像（D）、及び堀光亀像（G）は、6月24日に制作者を確認して[前回の記事/f](#)に記載した。矢野二郎像（F）の制作者は今回見ることが出来なかったが、[4\) のサイト/1](#)に記載されていた。

本稿では、矢野像の概要と、[1\) のサイト/](#)に収録されていない上田像（A）、磯野像（B）、及び兼松像（H）の検索結果を記載する。なお、[4\) のサイト/1](#)には上記のA-I像の他に、附属図書館にも多数の銅像があることが記載されている。しかし、図書館への入場は無理なので、今回は探索を断念した。

6月24日、私は杏林大学の松田像を探索した後、三鷹駅から国立駅に行き、一橋大学で銅像探索を目指した。前回、正門が閉ざされていて「部外者の立入禁止」との掲示があったので入構出来なかった。今回は、正門の方戸が開いていて、「部外者は守衛所にお越し下さい」と書いてあった。そこで、私は正門内の守衛所（図1の①）に行き、「構内の見学はよろしいでしょうか？」と尋ねた。すると、守衛さんが「建物の中には入らないで下さい」と言って、入構は許可してくれた。

（3）陸上競技場の北にある上田貞次郎像

次ページの図2上に、上田貞次郎像（図1のⒶ）の周辺を示す。本像は陸上競技場の北にある林の中の目立たない場所に設置されていた。

（本文は4ページに続く。）

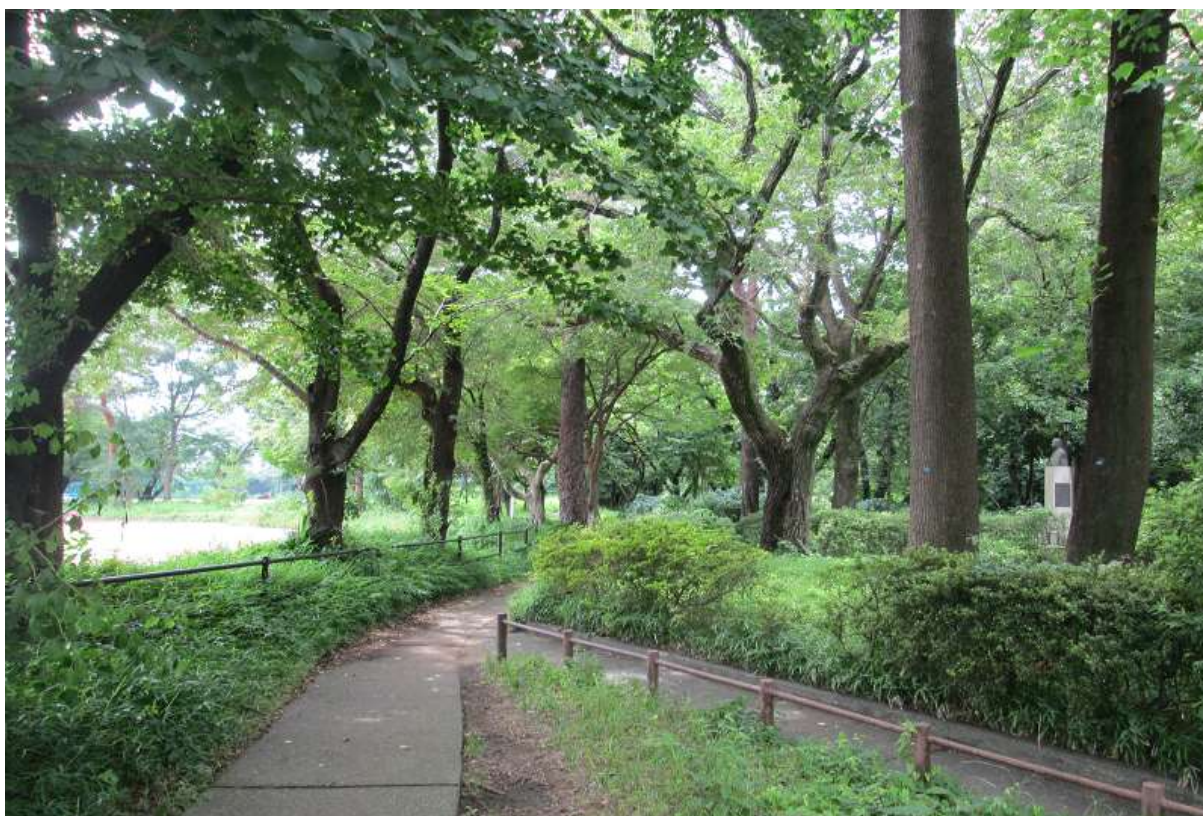


図2. 上：上田貞次郎像の周辺、下：上田貞次郎像。

図2下には、上田貞次郎先生の胸像を示す。本像の台座正面には「上田貞次郎先生」と書かれた浮彫の題字があった。

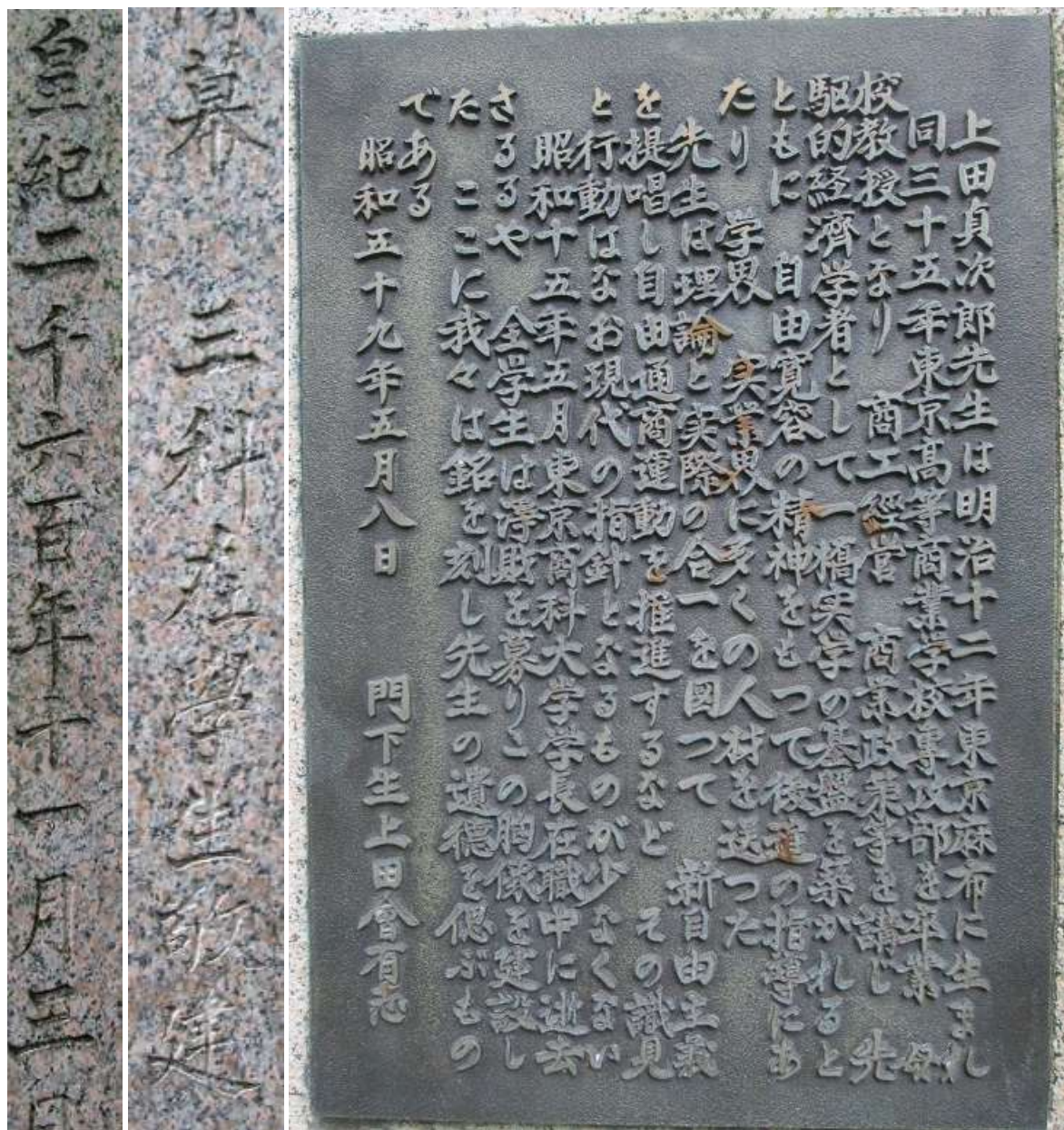


図3.

上左：台座背面の彫字（上部）、
 上中：台座背面の彫字（下部）、
 上右：台座背面の銘文、
 下：本像背面の制作者サイン。

図3上左には台座背面の彫字（上部）、図3上中には台座背面の彫字（下部）を示す。これらの彫字には「皇紀二千六百年十一月三日除幕 三科在學生敬建」とあった。図3上右には、台座背面の銘文を示す。本文は上田像の概要欄に記載する。図3下には、本像背面の制作者サインを示す。これは、有名な「朝倉文夫のサイン」である。

ウィキペディア（上田貞次郎）の最初には、次のように書かれている。

上田貞次郎（うえだ・ていじろう、1879年5月12日 - 1940年5月8日）は日本の経営学者、経済学者。経営学という概念を命名・提唱した。1937年、帝国学士院会員。1932年、勲二等瑞宝章。1940年、正三位勲二等旭日重光章。東京府麻布生まれ。上田家は祖父の代まで町人であったが、父上田章が漢学をやったために、士族に引き上げられた。

以上の資料などにより、上田像の概要は次の通りである。

上田貞次郎先生胸像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学陸上競技場の北

制作者：朝倉文夫(1883-1964)

除幕式：1940年 11月 3日

再建：1984年 5月 8日

設置経緯：上田貞次郎（うえだ・ていじろう、1879年5月12日 - 1940年5月8日）先生は日本の経営学者、経済学者。経営学という概念を命名・提唱した。1937年、帝国学士院会員。1932年、勲二等瑞宝章。1940年、正三位勲二等旭日重光章。東京府麻布生まれ。上田家は祖父の代まで町人であったが、父上田章が漢学をやったために、士族に引き上げられた。本像の銘文には以下の記載がある。

上田貞次郎先生は明治十二年東京麻布に生まれ 同三十五年東京高等商業学校専攻部を卒業 母校教授となり 商工経営 商業政策等を講じ 先駆的経済学者として一橋実学の築かれるとともに 自由寛容の精神をもつて後進の指導にあたり 学界 実業界に多くの人材を送った

先生は理論と実際の合一を図って 新自由主義を提唱し自由通商運動を推進するなど その見識と行動はなお現代の指針となるものが少なくない

昭和十五年五月東京商科大学学長在職中に逝去されるや 全学生は浄財を募りこの胸像を建設した ここに我々は銘を刻し先生の遺徳を偲ぶものである

昭和五十九年五月八日 門下生上田會有志

（4）磯野研究館の磯野長蔵像

[3\) のサイト/1](#)と[4\) のサイト/1](#)には、「磯野研究館（図1の⑳）の1階ロビーに磯野長蔵像が設置されている」と書かれている。そこで、私は上田像の探索後に、磯野研究館に行った。本館の写真を、次ページの図4上に示す。私が本学に行った6月24日は土曜日であったので、磯野研究館の玄関は閉まっていた。玄関のガラス窓の向こうに、1基の胸像が見えた。その写真を図4下左に示す。平日に行けば、玄関が開いていて、本像を撮影出来るかもしれない。

（本文は、7ページに続く。）



図4. 上：磯野研究館、下左：磯野長蔵像、下右：磯野研究館の銘盤。



図5. 一橋大学の磯野長蔵像、本図は、[5\) のサイト/1](#)より借用。本サイトには次のような説明がある。

磯野長蔵 (1874-1967) は鳥取県生まれ。明治30年東京商大(現・一橋大学)を卒業し、翌年磯野商会(現明治屋)に入社し大正8年明治屋社長。大正9年から麒麟ビール取締役、昭和17年から社長を兼務し、昭和37年に会長を辞任するまでに業界トップの座に押し上げた。昭和38年、母校の一橋大に「磯野研究館」を寄贈している。

私は本学の磯野像を撮影することが出来なかったが、[5\) のサイト/1](#)には本学の磯野像が収録されている。その写真を図5に示す。なお、ウィキペディア(磯野長蔵)の最初には、次のように書かれている。

磯野長蔵(いその・ちょうぞう、旧姓・三島、1874年3月12日 - 1967年6月25日)は日本の実業家。明治屋社長、会長を務めたほか、麒麟ビール設立発起人となり、麒麟ビール社長や会長を歴任。同社をビール業界トップとした。長蔵は鳥取県倉吉市河原町の呉服屋、三島久平・なをの次男として生まれる。勉強がよくでき、1883年、9歳のときに倉吉の戸長を務めた松本家を継ぐため松本仁平の養子となる。鳥取県尋常中学校(現鳥取県立鳥取西高等学校)授業料免除優待生を経て、上京、高等商業学校予備門(現日本大学第三中学校・高等学校)で1年間の浪人生活を送り、その後高等商業学校(現一橋大学)入学。1897年に7番の成績で卒業。学資は実父の三島が出した。1898年に卒業後、明治屋創業者の磯野計と米井源次郎が創立した貿易商社磯野商会入社。1902年、磯野の長女・菊と結婚。松本家の養子だったため、長蔵の妹が松本家を継ぎ、長蔵は隠居したうえで磯野家に婿入りするという手順を踏んだ。磯野商会は辞め、1903年、明治屋副社長に就任。翌年、ビジネスの勉強ためイギリスに留学し、1906年に帰国。

なお、[6\) のサイト](#)によれば、磯野長蔵像は1962年10月に横浜市鶴見区生麦にある麒麟ビール横浜工場にも設置されている。私は本学の本像を直接見ることが出来なかったため、本像の制作者や建立時期は不明であった。しかし、[4\) のサイト/1](#)には「本像の制作者は清水多嘉示(シミズ・タカシ、1897-1981)」と記載されている。

ウィキペディアには清水多嘉示の経歴が詳しく書かれているが、[7\) のサイト/1](#)には彼の略歴が次のように書かれている。

信州の原村で1897年に生まれた清水多嘉示は、若くして画才を発揮していました。絵画を学ぶためフランスのパリに渡った彼は「サロン・デ・テュイルリー」でロダンの高弟、ブールデルの作品と出会い、これに感銘を受け、以後は彫刻家を志すに至りました。その後、日本に帰国した彼は、ブロンズ彫刻で日展をはじめ国際的にも広く活躍します。1980年には、その功績により文化功労者に顕彰されました。また、日展顧問や武蔵野美術大学名誉教授などを歴任し、日本の美術界の発展に貢献しました。彼の作品が一堂に会した、八ヶ岳美術館がオープンした翌年の1981年、惜しまれつつ84歳でその生涯を閉じました。彼のブロンズ彫刻には、故郷の原村や信州の各所で、また日本の各地でも出会うことができます。

以上の資料などにより、磯野像の概要は次の通りである。

磯野長蔵胸像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学磯野研究館 1 階ロビー

制作者：清水多嘉示(たかし、1897-1981)：長野県原村出身、武蔵野美術大学教授、文化功労者

設置時期：不明

磯野研究館：1963 年竣工

設置経緯：磯野長蔵（いその・ちょうぞう、1874 年 3 月 12 日 - 1967 年 6 月 25 日）は鳥取県倉吉市河原町の呉服屋・三島久平の次男として生まれる。1898 年に高等商業学校（現一橋大学）を卒業後、明治屋創業者の磯野計と米井源次郎が創立した貿易商社磯野商会入社。1902 年、磯野の長女・菊と結婚。明治屋社長、会長を務めたほか、キリンビール設立発起人となり、キリンビール社長や会長を歴任。同社をビール業界トップとした。1963 年に母校の一橋大に「磯野研究館」を寄贈。

（5）兼松講堂の兼松房治郎像

私は磯野像の探索後、兼松講堂（[図 1 の 9](#)）に向かった。その写真を[図 6](#)に示す。私は「多分、講堂内には入れないだろうが、一応建物だけは拝見しておこう」と思った次第である。



図 6. 兼松講堂

兼松講堂は本学では最も有名な建物の一つで、本学の設備案内 [\(8\) のサイト /1\)](#) に次のように書かれている。

株式会社兼松商店（現兼松株式会社）から創業者兼松房治郎翁の遺訓に基づき寄贈を受け、伊東忠太の設計により1927年(昭和2年)8月に創建されたロマネスク様式の建物です。平成12年には国の登録有形文化財に選ばれました。2003年4月から2004年3月にかけて本学卒業生等の募金により大改修が行われ、耐震、空調などの諸機能を備え、かつお化粧直しの行き届いたシックな内装へと見事な変貌を遂げました。

なお、兼松講堂の紹介は、[9\)のサイト/1](#)が優れている。



図7. 兼松講堂の2階ホール

私が本講堂の玄関に近寄ると、扉が少し開いていた。「何だろう？」と思って、玄関に入ってみると、中には受付があって、そこに超美人の女学生が一人居た。

私「今日は、何があるのですか？」

女学生「三大学合同の発表会です。」

私「講堂に入っていいですか？」

女学生「身分証明書を見せて下さい」

そこで、私は彼女に「[運転経歴証明書](#)」を見せて、発表会を見学することを理由として、講堂内に入れて貰った。私は講堂内の発表会を見ず、周囲のホールで銅像を探した。しかし、1階には無かったので、思い切って2階まで登ってみた。すると、2階ホールで1基の胸像を発見した。その写真を図7に示す。

次ページの図8左には、胸像の写真を示す。本像台座正面には、「[兼松房治郎翁像](#)」との題字があった。台座正面に貼られた銘盤の最後の部分を図8右に示す。それには、「[昭和二年十月](#)」の日付があった。本像周辺には制作者の記載を発見出来

なかったが、[4\) のサイト/1](#)には制作者の名前が「堀進二(1890-1978)」と書かれていた。



図8. 左：兼松房治郎翁の胸像、右：台座正面に貼られた銘盤の最後の部分。

兼松房治郎翁の経歴は、兼松株式会社のHP ([10\) のサイト/1](#)) に詳しく書かれている。また、ウィキペディア (兼松房治郎) の最初の部分には、次のように書かれている。

兼松房治郎 (弘化2年5月21日 (1845年6月25日) - 大正2年 (1913年) 2月6日) は、江戸時代末期 (幕末) から大正初期にかけての大坂出身の日本の実業家。兼松商店 (現・兼松株式会社の前身) 創業者。「日豪貿易のパイオニア」といわれる。弘化2年 (1845年)、大坂・江之子島で父・廣間彌兵衛、母・八重のもとに生まれる。父が行方不明となり、12歳で母親を扶養するため伏見西浜の醤油、味噌などを商う「葎屋」に丁稚奉公するが翌年、大坂の縁戚で新天満町丹波屋延蔵方に住まうも続かず、しばらくして京都

に赴き、東洞院万壽寺の鮎屋庄兵衛の乾物問屋に住み込みとなった。この主人の残酷な虐待に耐え忍んだ。

以上の資料などにより、兼松像の概要は次の通りである。

兼松房治郎翁胸像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学兼松講堂 2 階ロビー

制作者：堀進二(1890-1978)

設置時期：1927 年 10 月

設置経緯：兼松房治郎翁（1845 年 6 月 25 日-1913 年 2 月 6 日）は、大坂・江之子島で父・廣間彌兵衛と母・八重のもとに生まれる。父が行方不明となり、12 歳で母親を扶養するため伏見西浜の醤油、味噌などを商う「葭屋」に丁稚奉公するが翌年、大坂の縁戚で新天満町丹波屋延蔵方に住まうも続かず、しばらくして京都に赴き、東洞院万壽寺の鮎屋庄兵衛の乾物問屋に住み込みとなった。この主人の残酷な虐待に耐え忍んだ。

紆余曲折の末、房治郎は 1873 年に 28 歳で三井組銀行部（現・三井住友銀行）大阪分店に入店。丁稚同様のスタートであったが、誠実かつ積極的な努力が実を結び、当時の銀行が扱っていなかった民間資金の取り扱いも導入し、多くの成果と信用を勝ち取っていった。その後三井を退社し、1884 年、大阪を中心とした海運業界の活性化を図るべく大阪商船（現・商船三井）の創設に参加し取締役となる。1887 年、大阪日報を買収し、翌年に大阪毎日新聞と改称。今日の毎日新聞の基礎を作る。

房治郎は「国力の振興は貿易によるしかなく、貿易の商権はわれわれ日本人の手中に握らねばならない」という理想と希望に燃え、その目は畜産や鉱山などの宝庫であり世界一の羊毛産出国である豪州に向けられた。1887 年、初めて豪州シドニーを訪れ現地を視察した房治郎は、「わが将来の活動の舞台はここにあり、国家の福利増殖の道も合わせて得られよう」と決意。そして 1889 年、ついに 44 歳にして「豪州貿易兼松房治郎商店」（現・兼松）を神戸に創業。「日豪貿易のパイオニア」といわれる。日濠館（現・海岸ビルディング）、一橋大学兼松講堂、及び神戸大学兼松記念館は房治郎の資金で建造され、現在これらの建物は登録有形文化財となっている。

（6）兼松講堂西の矢野二郎像

私は兼松講堂で兼松像を探索した後、講堂西に設置されている矢野二郎像（図 1 の㊦）に行った。[前回の記事/f](#)に記載したように、矢野像の制作者は今回見ることが出来なかった。しかし、[4](#)の[サイト/1](#)に「[堀進二\(1890-1978\)](#)」と記載されていた。私は[87 回の記事/f](#)で、矢野像の紹介記事を書いていたので、それを用いて矢野像の概要を次のようにまとめた。

矢野二郎先生立像

設置場所：東京都国立市中 2-1 一橋大学兼松講堂の西

制作者：堀進二（1890-1978）

建立時期：1931 年 5 月

設置経緯：矢野二郎先生（やの・じろう：1845. 2. 21-1906. 6. 17）は明治時代の日本の外交官、教育者、実業家。旧幕臣。初めは次郎兵衛、ついで次郎と名乗ったが、自ら好んで「二郎」と署名し晩年に至ってこれを通称とした。明治 30 代以降は一橋大学の前身である商法講習所・東京商業学校・高等商業学校の草創期の校長を長く務め、日本における商業教育の開拓者となった。

参考資料

- 1) のサイト : <https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト : <http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト : <https://www.hit-u.ac.jp/guide/outline/map.html>
- 3) のサイト/1
- 4) のサイト : <https://www.hit-u.ac.jp/guide/outline/portrait.html>
- 5) のサイト : http://soutairoku.com/07_douzou/02_i/isono_tyouzou.html
- 6) のサイト : [磯野長蔵 \(fortunastella.com\)](http://www.fortunastella.com)
- 7) のサイト : <http://www.lcv.ne.jp/~yatsubil/tenzi/index.html>
- 8) のサイト : <https://www.hit-u.ac.jp/guide/other/facility.html>
- 9) のサイト : <https://ameblo.jp/miu-80/entry-12042088653.html>
- 10) のサイト : <https://www.kanematsu.co.jp/company/history/roots.html>